

- 2面 宮島(厳島)体験乗船  
〈中・四国〉
- 3面 各地で  
スポーツイベントを開催

# 船員しんぶん

◆ホームページアドレス <https://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス [kaiin@jsu.or.jp](mailto:kaiin@jsu.or.jp)  
全日本海員組合発行 第3099号 (昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2025年(令和7年)  
10月15日  
本紙は毎月5・15・25日発行

〒106-0032 東京都港区  
六本木7丁目15番26号  
全日本海員組合本部  
発行人 齋藤 洋  
TEL 03-5410-8329  
FAX 03-6910-5339  
定価1部50円  
(組合員の購読料は組合費に含む)

国際両備フェリー株式会社

おりんぴあどりーむ せと

## 無人運航船プロジェクトMEGURI2040

### MEGURI2040の実証実験を視察

公益財団法人日本財団が中心となり、2020年2月から推進されている無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」の自律航行を実証実験が9月16日と17日に行われ、国土交通省と共に全日本海員組合の執行部が視察した。無人運航船プロジェクトは、船舶の事故防止、海運業の担い手不足の解消、離島航路の維持など、さまざまな社会課題の解決につながるものとして研究が進んでいる。2040年には現在比30%の船員不足が予測されており、無人運航船を社会実装することで船員不足に対応するほか、船舶の安全性の向上と安定的な物流を支えることを目標としている。



おりんぴあどりーむせと



着岸時、操船する中村勝船長



船橋で視察のようす



船内でプロジェクターによる無人運航船の説明

残暑が続くこの日、新岡山港を訪れた11人の全日本海員組合執行部が、本プロジェクト関係者と共に国際両備フェリー株式会社の「おりんぴあどりーむせと」に乗船した。2019年に就航した「おりんぴあどりーむせと」は、僚

船「おりんぴあどりーむ」とともに新岡山港と小豆島土庄港間の約24kmを片道70分で結んでいる。旅客定員は500人で、乗用車60台を搭載できる。この航路は離島の生活航路として利用されており、自律

運航技術をどこまで導入できるかを検証する実証実験を行うため、必要な機器を装備して出港した。実験内容は、船の乗組員の定員は現行通りとし、突発的事態が起きた際には、人による操船に切り替える前提で、港での離着岸、航

行中の監視警戒や行き交う船舶との回避を自動化などで実施した。視察では船内で最初にプロジェクト映像で説明を受けた後、船橋(ブリッジ)に昇り、船舶が出港した後、着岸直前まで自律航行のプログラ

ラムに沿って航行する状況を視察し「おりんぴあどりーむせと」の中村勝船長や、プロジェクトに携わるシステムエンジニアと意見交換を行った。離島航路船の「おりんぴあどりーむせと」での洋上調整と実証実験は来年の3月まで続けられ、2026年にかけて、既存内航コンテナ船、既存内航RORO船、新造内航コンテナ船の3隻で洋上調整と実証実験が予定されており、準備を進めている。

#### 高度なシステムで航行を支援

無人運航船による自律航行のポイントとは、人間のタスクを高度なシステムに担わせることで人間の弱点を補い、経験の差を埋めることにある。加齢による能力の低下、集中力の継続、複雑作業の実施などについて、高度なシステムがサポートすることで、船員の労働負担(労働時間・精神的負担)を軽減する。

避航プログラムやコンピュータビジョン(夜間や視界不良時の情報収集は困難であるが、画像認識と処理技術を活用し、見えない物標や見えにくい物標を明確に見えるようにして情報収集を支援)、センサーフュージョンなど、船

が安全かつ効率的に運航できるよう支援することで、船の乗組員の多忙で多岐にわたる業務を軽減することを一つの目標にしている。そしてヒューマンエラーによる海難事故を削減し、究極的には「海難事故ゼロ」を目指している。

この無人運航船プロジェクトのディレクターを担う桑原悟さんは、日本郵船株式会社の船長経験者で、株式会社日本海洋科学の執行役員・運航技術グループ長の肩書を持っている。桑原悟さんは「船員が今ほとんどいなくなっている。船で働く人がなくなると事故が少なくなるようにしたい」と語り、視察で乗船した本組合執行部のさまざまな質問に答え、意見交換を行った。

「おりんぴあどりーむせと」が目的地の小豆島土庄港に入港すると、着岸岸壁の直前までコンピュータ操船が行われ、岸壁に着岸する係船作業は人による通常操船システムに切り替えて、中村勝船長がスムーズに本船を着岸させた。



左から株式会社日本海洋科学の桑原悟執行役員・運航技術グループ長、中村勝船長、田中伸一組合長代行

広島県廿日市市

宮島(厳島)

## 小学5年生の児童106人が体験乗船

## 練習船「大島丸」で、めざせ将来の航海士・機関士

9月5日、残暑の厳しいなか、広島県廿日市市で海員組合主催の「宮島(厳島) 体験乗船」を開催し、広島県廿日市市立佐方小学校5年生106人が参加した。

この体験乗船は、港町における船と船員の重要性を子どもたちに理解してもらうことを目的に企画し、廿日市市教育委員会ならびに公益財団法人中国海事広報協会の後援のもと、中国運輸局、大島商船高等専門学校の協力を得て、大島商船高等専門学校の練習船「大島丸」を利用して開催した。



操舵室見学



練習船・大島丸



機関室見学

参したお弁当を食べ、昼食を済ませた児童から水族館内を見学し、魚の生態などを学んだ。

水族館見学を終えた児童は「大島丸」に乗船するため、30分をかけた移動した。「大島丸」に乗船しボートデッキ・プープデッキ・ナビゲーションデッキの3班に分かれ、それぞれで出港のようすを見学した。「大島丸」が出港すると乗組員の誘導に従い、操舵室・機関室・居住区を見学。操舵室では、初めて見るレーダーや電子海図に興味を示したほか、双眼鏡を覗き、自分たちの学校や自宅を探などしていた。また、機関室では、乗組員から説明を受けた後、児童から▽何ノットで動いているのか▽ピストンは1分間に何回転しているのかなどの質問が出された。

船内見学が終わりデッキに出ると、友達と風景を楽しむなどして、それぞれの過ごし方で航海中の「大島丸」を楽しんだ。

「大島丸」が宮島桟橋に着桟すると桟橋に整列し、中村泰裕船長へお礼のあいさつを述べ、「大島丸」からは児童全員に記念品がプレゼントされた。

その後の閉会式では、児童代表から「本日は、私たちのために、このようなすてきな機会をもうけてくださり、ありがとうございました。今日一日、学校ではできない貴重な体験はかりで、とても楽し

午前8時50分に宮島口旅客ターミナル前に集合し、全員で宮島松大汽船株式会社のフェリーに乗船し、宮島に渡った。開会式は宮島のフェリーターミナルで行われ、平岡

英彦中央執行委員が主催者代表あいさつをした後、山下智

之広島県議会議員(副議長)、新田茂美廿日市市議会議員(議長)、本組合政治参与の中

原好治広島県議員から来賓のあいさつが述べられた。続いて、児童代表からのあいさつ後、児童は3班に分かれ、最初の目的地であるみやじマリン宮島水族館へ向かった。

片道約30分をかけ無事にみやじマリン宮島水族館へ到着した児童は、ライブプールへ移動し、アシカショーを楽しんだ。アシカショーが終わり

屋敷休憩に入ると、児童は持



水族館のアシカショー



山下智之広島県議会副議長



平岡英彦中央執行委員



児童代表のあいさつ



中原好治広島県議会議員(政治参与)



児童代表のあいさつ



新田茂美廿日市市議会議長

く学ぶことができました。特に、操縦室やエンジンルームなど普段は見ることができない場所を間近で見学できたことが一番心に残っています。私は、機関室や大島丸の船内

と・感じたことを大切に、これからの学習に生かしていきたいです。本当にありがとうございました」と感謝の言葉が述べられ、無事に終了した。



道南支部

海員スポーツイベント

ボウリングで懇親を深める

北海道道南東北八戸



北海道地方支部 室蘭地区



東北地方支部 石巻地区



八戸支部

8月28日、G・GOボウル室蘭で、組合主催の第11回室蘭地区漁船ボウリング大会を開催し36人が参加した。ゲームは各船2チームの計8チームを編成し、2ゲームの平均得点による団体戦と、2ゲームの合計得点による個人戦で競い合った。

第11回室蘭地区  
漁船ボウリング大会

はじめに山崎秀和北海道地方支部長が「出漁を目前に控えているので、ケガには十分留意して懇親を深めていただきたい」とあいさつし、若杉健太北海道地方支部在籍専従執行部員が、注意事項とルールを説明した。

8月7日、ボウルサンシャインで海員ボウリング大会を開催し、27人が参加した。はじめに若松信弘道南支部長代理があいさつとルールを説明した後、組合員家族の徳満桜



がら大いに盛り上がりをもて、白熱した勝負が繰り広げられた。団体戦の優勝に輝いたのは2ゲームの平均スコア112点の第8土曜丸Aチーム。準優勝はスコア111点の第8土曜丸Aチーム。3位はスコア110点の第12丸Bチームとなった。個人戦の優勝はスコア290点の第11丸丸漁船長の住岡誠さんで、参加者に祝福され、ボウリング大会を終えた。

海員ボウリング大会を開催  
白熱のゲーム、終始笑顔で

《北海道地方支部 発信》

第11回石巻地区  
海員スポーツイベント

《道南支部 発信》

7月28日、石巻市のプレナミヤギでスポーツイベントの



ボウリング大会を開催、沖合底引き網漁船の組合員26人が参加し、始球式は組合員家族の茂木永真くんが投球し、和やかにゲームがスタートした。白熱したゲームの結果、優勝は第三七八興丸の山下力輝さんで、第2位は第八十六

龍神丸の大橋玲月さん、第3位は同点で第八十三栄久丸の永沼拓洋さんと第五十七大吉丸の高橋直樹さんの2人となった。参加者からは来年はリベンジしたいなどの声が寄せられ、笑顔でゲームを終えた。

ハ戸地区  
ボウリング大会

8月6日、八戸市の「ゆりの木ボウル」でスポーツイベントのボウリング大会を開催し、八戸地区の沖合底引き網漁船組合員27人が参加した。はじめに主催者を代表して甲斐忠行八戸支部長が、あいさつとルール説明を行い、競技は、終始和やかな雰囲気で行われ、ストライクやスペアの時には大きな歓声が上が

海員スポーツイベント

第80年度 受賞者発表

(2024年8月～2025年7月)

おめでとう  
ございます

ボウリング部門

優勝 瀬田石武さん (八戸)

2位 兵頭拓斗さん (沖縄)

3位 村濱基修さん (鹿児島)

ゴルフ部門

優勝 木村啓司さん (中・四国)

2位 平野勝則さん (高松)

3位 馬越貞行さん (愛媛)

2025年10月15日

中央選挙委員会 議長 齋藤 洋

第40期全国委員の当選告示

一、2025年10月5日付で告示した第40期全国委員補充選挙については、立候補の受け付けを締め切り、立候補者の資格審査を行い、候補者が適格であることを確認した。

対立候補者がいない立候補状況であることから、全国委員選挙規則第25条D項により投票を略し、当選人を次の通りとする。

《地方区・地方単位》

03 関東 (補充定員1名・立候補者1名)

当選人 中村 将志 (関東地方支部在籍専従執行部員)

05 中・四国 (補充定員1名・立候補者1名)

当選人 桑田 慎之介 (中四国地方支部在籍専従執行部員)

《企業区・企業単位》

026 小名浜地区組合員 (補充定員1名・立候補者1名)

当選人 竹中 直人 (福島汽船)

029 川崎汽船 (補充定員1名・立候補者1名)

当選人 熊崎 幹也 (川崎汽船)

036 関東地区内航グループ (補充定員1名・立候補者1名)

当選人 大井 拓海 (近郵船舶管理)

040 共同船舶 (補充定員1名・立候補者1名)

当選人 寺本 陽一 (共同船舶)

以上

三崎支部

三崎港



北陸支部

三国港



## 船員の御霊に 哀悼の誠をささぐ

三崎支部

北陸支部

船員殉職者の追悼行事



海上殉難者慰霊祭

三崎支部

令和7年度海上殉難者慰霊祭  
8月16日、神奈川県三浦市民ホールで全日本海員組合三崎支部が主催団体に参画している令和7年度海上殉難者慰霊祭の式典がしめやかに執

り行われ、参加者は合祀者757柱にこうべを垂れ、改めて冥福を祈った。  
海上殉難者慰霊祭の主催団体は、三浦市と全日本海員組合三崎支部、三崎船舶主協

会など7団体で、三崎港発展の礎になった漁業者の死を悼み、慰霊祭には肉親や縁者を海難事故で失った関係者など多くの市民が焼香し、今は亡き知人や同僚の冥福を祈っ

た。慰霊祭の後、灯籠流しが行われ、波間に揺れる灯籠に手を合わせた。

委員長を務める出口嘉三浦市長は追悼の言葉の中で「三崎港は洋上で不屈の精神を発揮した漁業者の努力に支えられた。水産業を取り巻く環境は非常に厳しいが、水産業の発展こそが諸霊に報いる手だて。改めて冥福をお祈りする」と三崎港発展に向けて努力を傾注することを霊前に誓った。

三浦商工会議所は「遺族の心中は察して余りある。海難事故撲滅に心新たに取り組み」と弔意を述べた。また、神田眞司「三浦市議会議長は「高齢化や資源減少など水産業は逆風にさらされ、ますます厳しさを増している。洋上で働く漁業者が無事に帰港することを心から願う。遺族や関係者は深い悲しみに包まれているが、一丸となって水産業振興に取り組んでいきたい」と語りかけた。

三崎港前の海上に流された灯籠には「海上安全」「大漁祈願」などが書き込まれ、船形の灯籠は千羽鶴などで覆われ、渡し船に積み込まれた後、三崎港と城ヶ島の間地点から流され、周囲の建物の灯りに照らし出された灯籠が波間を漂った。(三崎支部「発信」)

三國船員殉職追悼法要

9月27日、殉職した三國底引き網漁船乗組員の殉職追悼法要を執り行った。追悼法要は、毎年、秋彼岸の第4土曜日に開催している。遺族の方々は、追悼法要の案内を送付しているが、高齢化が進んでいる実情もあり、参加者が

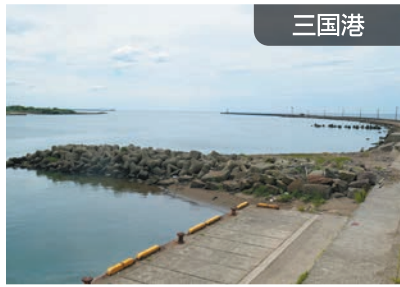
少なくなっている。  
今年は三國船員会役員をはじめ、三國港底曳船船長組合船木秀一組合長など、関係者が出席し、底引き網漁船で尊い命を亡くした船員の御霊に、地元「永正寺」の住職による哀悼の誠をささげお経が唱えられ、尊い犠牲を教訓に今後このような悲しみを繰り返すことのないよう決意を新たに、航海の安全、海難事故撲滅になお一層の努力を傾注して行くことを誓い祈願した。(北陸支部「発信」)



東尋坊



三国港



大洋エーアンドエフ株式会社

## 第八大都丸が出航 アンゴラ沖でカニ籠操業

7月19日、大洋エーアンドエフ株式会社所有のカニ籠漁船「第八大都丸」が清水港興津岸壁から、操業のためケープタウンに向け出航した。

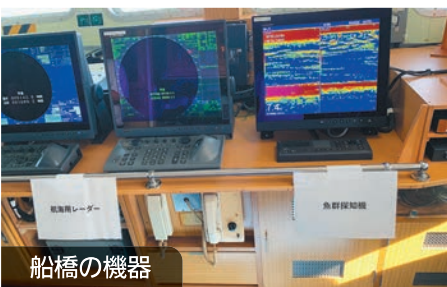
「第八大都丸」は1994年の建造以降、長年に渡り遠洋マグロはえ縄漁船として操業し、活躍してきた。

一方、2008年から投入していたカニ籠漁船「第一清良丸」は、船齢約38年が経過していることや、乗組員の居住・労働環境を改善するため「第一清良丸」の代替船として「第八大都丸」が遠洋マグロはえ縄漁船からカニ籠漁船として竣工した。

静岡県西伊豆町にある藤高造船株式会社で、縄を揚げるラインホーラーや、籠を船首から船尾へ移動させるために必要なボットリフターの取り付け、獲ったマルズワイガニを船上で加工するための脱甲機、脱血タンク・ボイル・冷却タンク間の原料移送のためクレーンの設置など、船体および設備機器の改造工事が行われ、遠洋マグロはえ縄仕様からカニ籠仕様へと生まれ変わった。

出港時は、会社や造船所関係者など多くの人々に見守られながら、安全航海を祈念するエールが送られ、ケープタウンに向け出航していった。本船は、ケープタウンへ入港した後、本操業の乗組員を派遣し、係船している「第一清良丸」から資機材の移設を行った上でナミビアを経由し、10月初旬ごろアンゴラ沖での操業に向け出港予定。

漁獲されたマルズワイガニは、船内で加工・冷凍された後、大部分は北海道富良野市にある株式会社マルハニチロ北日本富良野工場へ缶詰製品となり、私たちの食卓に提供される。(三崎支部「発信」)



船橋の機器



岡谷洋一漁労長のあいさつ



デッキ風景